

講演記録：熱田神宮界限について

I. 歴史

熱田…熱田神宮をはじめとし、いろいろな顔／側面を持ちながら発展してきたまち

◆ 4つの側面＝門前町・漁師町・宿場町・湊町

①門前町…創始 1902 年になる熱田社とともに栄えた。

○熱田の神話…剣と 2 つの古墳、三位一体で構成

- ・草薙神剣…日本武尊の剣。元は素戔鳴尊の剣(=天叢雲剣)であり、東征の途中、焼津において焼き討ちにあった際、この剣で草を薙ぎ払い迎え撃ったことからこう呼ばれるようになった。伊吹山への出征の際には剣を妻の宮簀媛に預け出たがその帰りに病死、遺された剣は奉られることとなった。
- ・断夫山古墳…宮簀媛の墓。(学術的には、皇族の墓ではないかと言われている)
- ・白鳥古墳…白鳥となった日本武尊の墓。

○象の鼻(熱田台地)

- ・以前は海が奥まで入り込んでおり、陸地となるのは台地と呼ばれる部分だった。その陸地の形から象の鼻と呼ばれる。熱田神宮はこの半島の南端に位置する。
- ・蓬莱伝説…熱田台地はその見た目から天神の住まう蓬莱島と呼ばれ、皇帝の命で不老不死の薬を探しに遣わされた使者が辿り着いた
- ・夜寒の里…台地の、海を見下ろす景色のよい高台(賀城園の周辺部)

②漁師町…4 英傑との関わり

○源頼朝…母が熱田大宮司家の娘。誓願寺は頼朝の生誕地と言われており、現地にはそれを示した看板が設置してある。

○織田信長

- ・信長塀…桶狭間の戦いの前に神宮で勝利を祈願し、後に勝利の礼として奉納したもの
- ・「熱田の濱夕上り魚市」…熱田の 1/3 は漁師の家であり、織田の時代には清洲へ出荷していた。(江戸時代には、尾張藩から特権を与えられ市場を独占していた。)

○豊臣秀吉

- ・裁断橋…秀吉の小田原攻めの際、初陣で出た堀尾金助は病死した。その母は息子の死を悼み、通る人々に念仏を唱えてもらうよう祈った文を擬宝珠に刻んで、架け替えた橋。現在は、復元した擬宝珠が現地に置かれ、実物は名古屋博物館に収蔵されている。(堀尾金助の父、吉晴は後に松江城を建造した人物である。)

○徳川家康…幼少期(竹千代)に人質として今川へ向かう途中で織田に誘拐され、熱田の加藤家へと預けられた。

③宿場町・④湊町

○宮宿…248 軒の旅籠の立ち並ぶ東海道最大級の宿場町。市指定文化財の丹羽家は脇本陣、熱田荘(旧魚半)は料亭。

○「築地楼上の遊興」…熱田は料亭・妓楼などがあり旅人・名古屋の城下町の住人により賑った。「どどいつ」はこれらの店で三味線と共に歌われた歌であり、熱田から広まっていた。

○七里の渡し…桑名までの7里(約28km)を4時間掛けて船で渡しており、運賃は現在での1~3千円程度と言われる。海路を行けない人々は脇街道(美濃路)を旅した。

◆近代産業の集積

明治になると、早くに南から東海道に沿って鉄道が引かれ、港もあった。

- ・江戸時代より堀川沿い、現在の国際会議場近くに貯木場があり、木曾産の木材を桑名から熱田へと運び、木工業が盛んだった。その後、近代になると時計・楽器の製造から航空機産業へと発達していった。
- ・日本車両や愛知時計等の民間工場があり、レンガ造の官立熱田兵器製造所は中京倉庫として今も残っている。

II. 熱田の現状

深い歴史を持つまちだが、現状よいと言えない部分もある。

- ・名古屋市へ編入…熱田町は南区へと編入され、一度その名が消える
- ・戦災…軍事工場が多数あったため空襲が幾度もあり、1945年6月9日熱田空襲では熱田神宮の3つの門が焼失した(そのうちの鎮皇門は加藤清正の造営)。
- ・道路網による分断…国道1号・19号の建設や区画整理により寺社領地が縮小されていた

III. 今に続く熱田

熱田は「歴史」と「食」のまち

- ・漁師町であり、うなぎを獲っていたことから、蓬萊軒がある。また、かまぼこ店が多いのもその名残りである。
- ・宿場町や門前町であったことから、茶屋・料理屋が多いまちで、魚半・魚半別邸がある

現在、熱田は長い歴史を持ちながらも、それを発信できていない状況である。

→蓬萊軒や宮きしめん。きよめ・妙香園等は「宮宿会」を結成し、またNPO「堀川町ネット」なども熱田の魅力発信のため活動している。